

「いじめを決して許さない集団づくり実践事業」への取組

尼崎市立武庫中学校

1 取組のテーマ 「生徒の自己有用感、自尊感情を高め、いじめの未然防止に努める。」

2 テーマ設定の理由

○児童生徒の実態

- ・最近は、「一定の人間関係」にある仲間集団での「いじめ」も見られ、かつてのような対立する集団での「いじめ」は減少傾向にある。表面的には仲良しグループの中で「いじめ」が発生し、ときには、「遊び」の延長線上に潜んでしまっているケースがあるため発見しづらい状況がある。
- ・携帯電話などのネットワークを介した「いじめ」問題については、周りからはまったく見えないネット環境の中でいじめが進行し重篤化することがある。

○児童生徒に育成したい力能力

- ・主体的に情報を活用する力
- ・情報モラル
- ・生徒の自己有用感や自尊感情。

○取組の視点

いじめは、「どの学校でも、どの子にも起こり得る」問題であることを十分に認識し、日頃からいじめを許さない学校づくりに努めるとともに、いじめの兆候をいち早く把握して迅速に対応し、いじめを認知した場合は、その問題を隠さず、学校は速やかに教育委員会に報告するとともにその支援を受け、家庭や地域、関係機関等と連携して適切に対処することが大切である。

3 推進体制

○生徒指導委員会を週1回行い、いじめ事案があればすぐに、いじめ対策委員会を開く。

○いじめ対策委員会（随時）

（校長、教頭、生徒指導主事、不登校担当、養護教諭、SC、学年係、SSW
その他必要に応じて家庭児童相談員、保健士）

○いじめマニュアルにしたがって行う。（別紙1）

- ①連絡・相談経路や窓口。（教育相談、外部との連携、定期的アンケート、TEL、等）
- ②教育委員会との連携・報告（いじめ報告、生指協議会、福祉事務所、等）
- ③教職員の指導体制（報告・連絡・相談の組織づくり、生徒への適切な指導、SCやSSWとの連携、保護者への説明・懇談の方法、支援や助言の方法、等）
- ④いじめられた生徒やいじめた生徒への指導体制（別室指導体制、学習支援方法、柔軟なクラス編成、施設・環境整備、等）
- ⑤保護者対応（事案の詳細な調査と報告、客観的事実の報告、丁寧な支援・指導・助言の提案と協力要請、等）
- ⑥関係機関との連携（事案の実態に沿った関係機関との連携、警察、福祉、病院、等）

4 取組内容

○生徒会中心に「いじめ0運動」を推進する。その中で、「いじめスローガン」を作り、全生徒に周知する。



- ・全校生徒からいじめ標語を募集した。
- ・最優秀作品 『「遊んでた」 そんな逃げ道 許されない!』
- ・優秀作品 『守ろうよ きらきら輝く その笑顔!』
- 『今だけじゃない 一生残る 許されない!』

(最優秀作品の横断幕を作り、校門横のフェンスに掲げた。またポスター作りを行い、校内の至るところに掲示して生徒たちがいつでも見えるようにした。)

○あいさつ運動。

- ・朝の校門指導 (本校職員・生徒会・保護者を中心に、武庫小学校の職員・児童とともにあいさつ運動を毎日行った。)
- ・生徒会中心にクラス全員が校門に立ってあいさつする日を設定する。(3学期に行う。)
- ・幼稚園児・小学校の児童、地域の人たちへの挨拶をする。

○生徒会活動を中心とした取り組みを行う。



- ・ボランティア活動 (校区内の地域清掃) を計画・推進する。
- ・シェラレオネ支援
- ・東日本大震災における気仙沼市立鹿折中学校の支援を継続する。(毎月11日には、募金活動を行う。今年度12月で東北支援30回目になる。特に気仙沼市立鹿折中学校の支援をしている。12月12日神戸新聞朝刊に阪急武庫之荘駅前での募金活動が掲載される。30回目を迎える)

(別紙2、別紙3)

- ・風紀委員会主催で「いじめ撲滅ビデオ」を作り文化発表会 (全校生徒、市教委、保護者、地域の人たちが参加) にて見せた。

題名「風紀委員会 いじめ0運動」「いじめは絶対ヤメルンジャー」

内容「いじめの定義。物を隠すいじめ。無理矢理やらせるいじめ。暴力のいじめ。陰口を言って仲間外れにするいじめ。」

- ・幼稚園、小学校行事へ参加。

○アンケートをもとに、教育相談を定期的に行う。(学期に1回)

1学期 (5月12日～5月15日) 2学期 (11月10日～11月14日)

3学期 (2月16日～2月20日)

○生徒指導部より全校生徒に「学校、家庭生活、規範意識に関するアンケート」を行い、その中にいじめの内容を入れて、自分自身を見つめ直す。

○武庫中校区生徒指導連絡協議会 (年3回。学校・地域の情報交換を行い、いじめの啓発を行う。)

- ・第1回武庫中校区生徒指導連絡協議会 (武庫中学校区の中小教職員、PTA、市教委、補導所、補導員等の地域住民の参加)の中で大学教授によるいじめの講演会を行う。立命館大学 教職教育推進機構 教授 山岡雅博氏による講演会を実施。『いじめ』に気づき、『いじめ』を指導する。

～子どもたちの生きづらさに寄り添いながら～



○ホームページ・学校だより・学年だよりの活用

・ホームページ

12月までに180回更新して、生徒の活動や学校の取り組みを掲載。

「いじめの基本方針」と「いじめのマニュアル」を掲載。

・学校だよりは、月2回発行して、生徒の活動や学校の取り組みを掲載して、武庫中学校区の小学生や地域の人に配布。学校だより10月号に「いじめ」の取り組み等の記事を掲載。

内容：風紀委員会では、いじめをなくす、防止するために、「いじめ0運動」を推進することになりました。そこで、いじめ撲滅に関するスローガンを募集して最優秀作品・優秀作品が選ばれました。さて、「いじめ」は暴力や嫌がらせ、無視する、のけ者にする・・・などの目に見える行動ばかりではありません。なにげないひと言が「いじめ」につながる場合があります。「いじめ」は、するほうが100%悪いのです。私たちは、同じ人間としてこの世に生まれ、すべての人が大切にされなければなりません。「いじめ」をするのは人間、だから、「いじめ」をなくしていくことができるのも人間です。目をつぶらないで、「やめろよ！」という声を出していきましょう。

○尼崎少年サポートセンターによる「インターネットを通じて行われるいじめ対応について」の講演会を行う。その中で、本校生徒会からも「携帯について」の話をする。(H27年3月18日。)

○生徒指導校内研修会 立命館大学 教職教育推進機構 教授 山岡雅博氏による講演会 テーマ「授業中の生徒指導」。いじめをさせない教室の雰囲気作りと学級集団作りが大事である。

○小中連携

- ・1日体験入学（武庫小学校6年生が、2日間武庫中学校で生活する）
- ・校区内小学6年生が、中学校の部活体験を行う。

5 成果と課題

- ◆日頃からいじめを許さない学校づくりに努めることにより、いじめの兆候をいち早く把握して迅速に対応することができている。生徒会を中心に生徒から「いじめ0運動」を発信することができているので、子どもたちの心の中に浸透している。
- ◆「いじめ問題」に対する生徒の主体的な取組を通して、「いじめ問題」を自分たちの問題として捉えさせることで、友人との豊かな関係構築の方法や、適切な関係修復の手立てなどを考える力、人を思いやる心が育成されてきている。
- ◆学校、家庭、地域のいろんな所で、本校の「いじめ0運動」を紹介しているので、学校だけではなく、地域の中でも協力してくれる人が増え、子どもを社会全体で見守り・育むという意識が醸成されてきている。
- ◆課題としては、教職員の一層のいじめ対応のための資質向上を目指し、いじめに関する教職員全体の充実した研修会を推進する必要があると考える。
特に「いじめの事例研究」を通じた研修を企画・実施して行く。